

会 報

理 事 会 報 告

(平成21年度第1回)

日 時 平成21年7月1日
 場 所 札幌グランドホテル
 出 欠 理事(30名中)出席:森理事長,中島・山岸常務理事,岸会長・倉澤次期会長,飛世,渡辺,川辺,倉島,佐々木,鈴木(公),長尾,鈴木(栄),梅,田野,森下,長谷川,鈴木(克),田中,重藤,富岡,菅,中西 計23名。
 金澤・坂谷監事。石崎支部長。
 欠席により委任状:相沢・阿彦・工藤・下方・高嶋・光山・河野理事 計7名。

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
 原著数は25編。平成20年度の合計投稿数39編。平成19年度より20編減少。ページ数が減っている。投稿原稿減少の対策としてミニ特集を企画。「抗酸菌症の画像」「抗酸菌症に対する外科治療」「接触者健診に役立つ結核感染に関する科学的根拠のレビュー」「免疫」を予定している。総会の原稿は,12月号・1月号にまとめて掲載する。編集委員会も,原稿集めの働きかけをする。

編集委員会の決定として,理事会への提案事項:①1年間の会費負担で非会員の投稿を認める。②雑誌の英文化。年1回は英文雑誌を発行する。③学会公式文書・ガイドライン等の著作権料無料化について。④日本科学技術振興機構による過去の結核誌の電子ジャーナル化。⑤臨床試験登録について。⑥ガイドライン等の英訳文掲載。⑦Online登録・Online査読実施。

2. 学会賞選考委員会(岸会長)

平成20年12月2日 於 財団法人結核予防会
 今村賞は岩本朋忠氏。研究奨励賞は3題選出された(報告事項V参照)。

3. 治療委員会(重藤委員長)

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
 薬剤耐性結核への対策を今後の課題とする。

4. 社会保険委員会(飛世委員長)

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
 現在,改正された平成20年4月版の診療報酬点数を使用している。この改正で,新たに結核病棟入院基本料13:1は在院日数の制限が条件つきで廃止された。条件とは,感染性が消失して退院しなければならない患者を入院させていると,ペナルティーとして1日949点から特別入院基本料550点に減額される。DOTS管理加算は,平成18年,20年診療報酬改正時に厚労省保険局へ要望しているが,未だ採用されていない。次回の改正では,結核地域連携パス・DOTSなどにリメイクして提出する必要がある。

平成21年4月に,平成22年診療報酬点数改正に向けた提案書(旧要望書)を,内保連へ提出した。その概要は以下のとおり。

(1) 医療技術評価分科会に提出したものは,すべて現点数の引き上げであり,①結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン γ 測定点数,②抗酸菌分離培養検査,③結

報告事項

- I. 会務報告
- II. 委員会報告
- III. 支部活動状況
- IV. 第85回日本結核病学会総会準備状況
- V. 平成20年度学会賞について
- VI. 推薦委員会からの報告について
- VII. その他

議 案

- 第1号議案 平成20年度日本結核病学会収入支出決算
- 第2号議案 平成21年度日本結核病学会収入支出予算案
- 第3号議案 第86回総会会長並びに開催地について
- 第4号議案 名誉会員・功労会員の推薦について
- 第5号議案 新理事・新評議員・新監事について
- 第6号議案 その他

山岸常務理事より会の成立が述べられ,森理事長の司会により開始。平成20年11月長澤誠司名誉会員の逝去が理事長より報告され,全員で黙禱。岸会長より挨拶。

報告事項

I. 会務報告(山岸常務理事)

会員数は若干減少傾向にある。理事会は4月,8月例年どおり開催。推薦委員会・監事会は平成21年6月に行われた。

II. 委員会報告

1. 編集委員会(中島委員長)

平成21年1月30日 於 財団法人結核予防会

核菌群リファンピシン耐性遺伝子同定検査, ④抗酸菌薬剤感受性検査等である。

(2) 厚労省保険局医療課長に内保連代表が直接手渡すものは, ①入院基本料13:1のペナルティーの完全排除, また7:1は30日, 10:1は60日にと在院日数の縛りは結核医療の実情に合わせて延長してほしいと要望。初期加算料では, 点数増と日数緩和を要望, 特に入院61日~90日で初期加算料200点を希望。②病棟単位での経営が難しい結核病棟はユニット化し, ユニット化された病室では一般病棟入院基本料の扱いでなく, 結核病棟入院基本料での算定を希望。③結核感染症管理料, 陰圧室管理加算も提出。④従来のDOTSも結核地域連携診療計画管理料等として提出。

(3) 医薬食品局扱いとなるものも, 従来どおり提出。主に薬剤の適用拡大が主で, 多剤耐性結核症(レボフロキサシン), 非結核性抗酸菌症(リファンピシン・エタンブトール等)を提出。

5. 用語委員会 (榎委員長)

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
3年かけて, 用語事典改訂版を発行した。理事の皆さんには売上があがる手段を要望したい。関連学会で書籍販売に置いていないので, 南江堂に依頼したい。

繰り越し事項。①次の改訂でのCD-ROM利用。改訂作業はその都度行いたい。事務局, 用語委員会に情報を蓄積したい。②結核の学会分類(英語版)。日本医学会で用語事典が発行されたが, 結核は古い学問で用語が難しい。日本医学会で用語の一本化の方針がされた。

6. 教育委員会 (森下委員長)

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
(1) 日本呼吸器学会(JRS) 学術講演会での合同企画について

平成20年度の第49回JRS学術講演会での合同企画として, 20年6月14日に第84回ICD講習会を開催した。昨年は約1,000人の受講者があったが, 今年は会場が小さく, 約600名が受講し, 事前にすでに受講が締め切られるほどの盛況であった。昨年, JRSの成人院内肺炎診療ガイドラインが改定されたことを受けてテーマを下記のように設定した。

テーマ「成人院内肺炎診療の実際—多剤耐性菌(MRSA, MDRP, MDR-TB)を中心に」 座長: 渡辺 彰(東北大学加齢医学研究所), 森下宗彦(愛知医科大学メディカルクリニック) 演題1. 成人院内肺炎ガイドライン改定のポイント1 重症度区分は何を根拠にどのように改定されたか: 関 雅文(長崎大学) 演題2. 成人院内肺炎ガイドライン改定のポイント2 抗菌薬選択の基準はどのようなものか: 石田直(倉敷中央病院) 演題3. 抗MRSA薬をどう使い分けるか: 松本哲哉(東京医

科大学病院) 演題4. MDRPが検出されたらどうするか: 平潟洋一(東北大学) 演題5. 多剤耐性結核の治療: 豊田恵美子(東京病院)

来年からはJRS学術講演会でのICD講習会は結核病学会との合同企画から外れて, JRSの感染症結核部会に移管されることになった。それに伴い, 結核病学会との合同企画は, 2年以前に戻り, 結核講習会(結核生涯教育セミナー)として行われる予定である。テーマは, 感染症結核部会から「一般病院における結核対策をどうするか」が提案されている。締め切りが迫っており, 現在プログラムを調整中である。

(2) 「結核症の基礎知識」の改訂について

内容が実情に合わないところが出てきており, 現在改訂作業が終盤になった。「結核診療ガイドライン」が出版されたが, これは研修医あるいは一般医向けであり, 「結核症の基礎知識」は学生とコメディカル向けである。この調整の意味もあり, 改訂作業が遅くなった。

7. 予防委員会 (鈴木(公)委員長)

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
医療関係者に関するQFTを用いた結核の院内感染対策について現在検討中であり, 次期委員会で成案として提出する。QFT検査機関の40%の技術者に問題があるとの報告があり, 検査の精度管理に関する指針の作成について次期委員会に提案したい。

8. 非結核性抗酸菌症対策委員会 (倉島委員長)

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
平成20年, 「肺非結核性抗酸菌症診断に関する指針—2008年」「肺非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解2008暫定」を呼吸器学会感染症・結核学術部会と合同で, 「肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療の指針」を本学会単独で公告した。「診断に関する指針」は使われて1年経過し, 簡潔になり好評である。「肺非結核性抗酸菌症化学療法に関する見解2008」は当初から暫定。今後の充実を期待する声大きい。次期の委員会に引き継ぎたい。「肺非結核性抗酸菌症に対する外科治療の指針」は, 多くの施設で演題がでるようになった。外科の中で浸透度が低い。呼吸器外科・一般外科に浸透させていくことを, 次期委員会にお願いしたい。わが国ほどこの症例をもっている国はない。新しい薬の試験についても積極的に世界に発言していく大きな力を発揮してほしい。

9. 抗酸菌検査法検討委員会 (御手洗副委員長)

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
抗酸菌検査施設を対象とした「結核菌薬剤感受性検査の外部精度評価」を, ここ数年継続し実施している。昨年度は, 結核菌株10株を使い, パネルテスト形式。昨年の参加は89施設。今回特記すべきは, 地方衛生研究

所が初めて6施設参加した。最終的に評価したのは84施設で回収率94%である。

昨年暫定的にイソニアジド・リファンピシン・ストレプトマイシン・エタンブトールの一致率90%以上の基準を満たしている施設が64施設76.2%。これまでの合格率と変わらない。

今回初めてパネルテストの結果をうけ、どういった改善活動を行ったかのアンケート調査を行い回収率27.4%であった。菌液調整法の改善、内部精度管理方法の見直し、検査法の変更が行われている。精度保証については好印象である。来年度も実施する。XDRに関し、日本にはアミカシンに関する基準濃度の設定がない。比率法の基準設定をお願いしたい。

10. 将来計画委員会（森理事長）

平成20年12月15日 第1回専門医問題等検討会

於 アルカディア市ヶ谷

平成21年2月11日 第2回専門医問題等検討会

於 財団法人結核予防会

平成21年4月10日 第3回専門医問題等検討会

於 財団法人結核予防会

平成21年6月13日 於 東京国際フォーラム

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター

会員数減少に関連し、「専門医制度検討ワーキンググループ」と「結核病床のあり方に関する検討ワーキンググループ」を設置、検討してきた。

(1) 結核抗酸菌診療医・指導医制度の導入等について（渡辺 彰）

学会活性化・会員数増加の案として、①発表者の会員資格条件の緩和化、②表彰制度の確立、③参加費のディスカウント（研修医対象）、④呼吸器学会活動に結核病学会の意向を組み入れてもらうことが提案された。

「専門医制度」は、専門医制度協議会枠内での設立は、運営維持に制約が多い、若手医師は抗酸菌症診療の勉強を欲する一方で、試験制度よりも聴講を主体とした資格制度に親近感があることから、他の資格制度創設を検討することとなった。本学会同様、会員数が3000名を一時割りながら、数年で5000名まで会員数を回復する最大要因となった日本化学療法学会「化学療法認定医・指導医制度」を参考として、「結核・抗酸菌症診療医・指導医制度」創設を提案する。骨子は、教育セミナー受講により単位付与と共に、5年間で所定単位数をクリヤーにより更新を認めるものである。

(2) 病床のあり方について（加藤誠也）

結核入院患者の減少および入院期間の短縮化に伴い、半数以上の県で必要病床数が50床（1病棟単位）以下になっている。現行医療法の病床区分における「結核病床」は廃止し、現行のモデル事業を発展させる形で一般

病床への収容、あるいは第二種感染症指定医療機関における感染症病床も選択肢となりうる。ユニット化・陰圧個室の感染症病床などの具体的な病室のあり方は、診療報酬との関係を含め検討する必要がある。

（森理事長）法人化・呼吸器学会における結核学術部会の独立設置・学術講演会への参加者増加案を、懸案として検討したい。

11. 保健・看護委員会（小林副委員長）

平成20年11月9日 於 財団法人結核予防会

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター

①昨年度から地域DOTSガイドラインの作成に取り組んでおり、年内に完成させたい。②国際的医療基準の患者憲章の和訳を検討したので、事務局へ提出する。③多剤耐性の患者や対応の難しい患者にどのように対応していくか。事例まとめを引き続き行っていく。

12. 国際交流委員会（中西委員長）

海外、特にアジア諸国の結核治療の現状調査に取り組んできた。台湾・フィリピン・韓国等は、公式ガイドラインがでている。基本的には日本・ATSガイドに準拠していることが判明した。調査過程の中で、日本のガイドラインは諸外国と比べ、ストレプトマイシンが入っている点が相違であった。それぞれ海外の学会ではDOTSが特に強調されている。但し、各国の公式ガイドラインが実態を反映しているのかは不明である。

繰り越し課題は、①呼吸器学会結核学術部会に出席してもらい、現状についての意見交換をしてもらいたい。②持ち込み結核の調査。次の委員会に託したい。③アジアでは、欧米ガイドラインに準拠したものになっているが、低蔓延国と中蔓延国が同じでよいのか。実態を含め情報集約したい。④いくつかの大学とタイ・バングラディシュ・フィリピンWHOで活躍の方の連絡先を調査、情報交換をするネットワークを作成しつつある。今後さらに拡げていただきたい。⑤APSRの英語表記（The Japanese Society for Tuberculosis）はforでよいのか、ofではないか。検討していきたい。

13. 診療ガイドライン作成委員会（山岸委員長）

平成20年5月19日 於 財団法人結核予防会

1年限りの委員会。対象を臨床医・一般診療医として作成した。各種委員会からの委員会報告との整合性をとるため、治療委員会・教育委員会・予防委員会・抗酸菌検査法検討委員会の委員長・副委員長を中心に委員就任していただき、執筆してもらった。平成21年6月の呼吸器学会総会に合わせ発行できた。執筆者・理事には南江堂から贈呈し、評議員には本学会が購入し配布した。評判がよい。

14. プログラム委員会

第84回総会プログラム委員会（岸会長）

平成20年4月4日 於 財団法人結核予防会
第85回総会プログラム委員会（倉澤次期会長）

平成20年8月21日 於 財団法人結核予防会

平成21年7月2日 於 札幌コンベンションセンター
（本誌前付頁参照）

15. ICD制度認定委員会（渡辺委員長）

平成21年7月1日 於 札幌コンベンションセンター
昨年からICD制度協議会に参加している。第84回総会では、シンポジウム「新しい結核感染診断法の課題と展望」がICD講習会として認定された。

第85回総会では「結核の院内感染対策」をテーマに、演題名 ①結核の見逃しをなくすために、②結核院内感染対策総論、③結核の院内感染対策におけるQFTの活用、④結核の院内感染対策における保健所の役割、をICD講習会に認定した。

ICD制度認定委員会規程を作成した。副委員長を互選した。

Ⅲ. 支部活動状況

北海道支部（岸支部長）

平成20年11月29日、第55回結核談話会を札幌市結核診療機能強化研修と合同開催し、阿彦忠之氏が「感染症法に基づく結核の接触者健診者の効果的な進め方」を講演。177名参加、うち医師85名。接触者健診に関心が高かった。平成21年2月28日、第59回支部学会を日本呼吸器学会およびサルコイドーシス肉芽腫性疾患学会北海道支部学術集会和合同開催。特別講演は露口一成氏が「肺結核性抗酸菌症の診断と治療」を講演。

東北支部（渡辺支部長）

平成20年9月20日、第117回支部学会を木村会長により秋田市で、平成21年3月7日、第118回支部学会を新妻一直会長により郡山市で、いずれも日本呼吸器学会東北地方会和合同開催。

関東支部（長尾支部長）

平成20年9月20日、第154回学術集会和渡辺党会長により高崎で、平成21年2月21日、第155回学術集会和豊田恵美子会長により東京で、日本呼吸器学会と合同開催した。

北陸支部（石崎支部長）

日本呼吸器学会・内視鏡学会・サルコイドーシス学会と合同地方会開催。第72回：平成20年5月24・25日西耕一会長により石川県で、第73回：平成20年10月25・26日平井隆会長により福井県で、第74回：平成21年5月23・24日小池輝明会長により新潟県で開催。

東海支部（長谷川理事）

第112回東海地方会が平成20年11月23・24日に加藤達雄会長により岐阜で、第113回東海地方会が平成21年6月27・28日に服部良信会長により名古屋で、呼吸器

学会地方会和合同開催された。

近畿支部（坂谷支部長）

呼吸器学会近畿支部と合同で地方会を開催しており、夏が呼吸器学会、冬は結核病学会が主催する。平成20年7月に岩崎信博会長のもとに神戸で、平成20年12月に東田有智会長のもとに大阪で開催された。地方会のスムーズな運営を目指して、昨年度から各地方会に80万円を交付している。

中国四国支部（富岡支部長）

平成20年9月27日、第2回支部研究会を支部事務局主催により岡山市で開催、特別講演を重藤えり子氏に依頼し「『結核医療の基準』の見直し」、シンポジウム「結核診断の最前線」。平成21年2月22日多田慎也会長により第59回支部総会を高松市で開催、ミニシンポジウム「新しい抗酸菌症治療薬の開発をめぐる」。

九州支部（中西理事）

平成20年11月6・7日藤田次郎会長により沖縄で、平成21年5月23日沖縄市で久場睦夫会長により、呼吸器学会と合同で開催した。

Ⅳ. 第85回日本結核病学会総会準備状況（倉澤次期会長）

平成22年5月20日（木）・21日（金）に京都テルサで開催する。テーマを「目指せ、結核半減！ 今、求められている対策は？」とした。（本誌前付頁参照）

Ⅴ. 平成20年度学会賞について（岸会長）

今村賞は、受賞者：岩本朋忠氏（神戸市環境保健研究所）「結核菌北京型ファミリーの集団遺伝的解析から推察される日本国内定着型遺伝系統群の存在と遺伝系統別薬剤耐性化傾向の違い」。研究奨励賞は、①金子有吾氏（東京慈恵会医科大学）「慢性肝炎合併結核患者の結核化学療法による肝障害の検討」、②長野誠氏（株式会社ビー・エム・エル）「16S rRNA 遺伝子およびITS-1領域をターゲットとしたInvader法による23菌種の抗酸菌の同定」、③長嶺路子「新宿区内の全結核患者に対するIS6110 RFLP分析の実施と評価」。

議 案

第1号議案 平成20年度日本結核病学会収入支出決算・平成20年度学会賞積立金決算（山岸常務理事）

（本誌645、646頁参照）

（坂谷監事）6月開催の監事会で監査し、適正であると承認した。

（収入支出決算・学会賞積立金決算は承認された。評議員会へ提議。）

第2号議案 平成21年度日本結核病学会収入支出予算案・平成21年度学会賞積立金予算案（山岸常務理事）

（本誌645、646頁参照）

第3号議案 第86回総会会長並びに開催地について（森理事長）

推薦委員会では、中島由槻氏（国立病院機構東京病院）を推薦したい。最終的には評議員会の決定になる。（承認された。評議員会に提議。）

第4号議案 名誉会員・功労会員の推薦について（森理事長）

名誉会員：露口泉夫（近畿支部）。

功労会員：岸不盡彌・飛世克之（北海道支部），阿部千代治・小栗豊子・折津愈・工藤翔二・倉島篤行・小松彦太郎・長尾光修・町田和子・森 亨・四元秀毅（関東支部），下方薫・杉浦孝彦（東海支部），坂谷光則（近畿支部），城戸優光（九州支部）。

（承認された。評議員会に提議。）（本誌659頁参照）

第5号議案 新理事・新評議員・新監事について（森理事長）

新理事・新評議員・新支部長については、支部により選出された。推薦委員会では、阿彦忠之氏、西村一孝氏を監事に推薦したい。（承認された。評議員会に提議。）

（本誌657, 658, 660頁参照）

第6号議案 その他

（長谷川理事）選挙方法について。結核に熱心に取り組んでいる方が評議員になれない現象がある。選挙に落ちた人に推薦枠で評議員になっていただかないと、学会の活性化には現場で働いている人が必要である。

（長尾理事）関東支部として賛成する。

（山岸常務理事）役員選挙の規約により、1割までは推薦枠で選んでよい。推薦枠で選ぶかどうかは各支部に任されているので、評議員定数の1割は推薦で選ぶと宣言して開票することは可能である。次期理事会に引き継ぎ、選挙時に連絡するようにする。

（中島常務理事）編集委員会の提案事項①～⑦については理事会評議の結果、①、②は編集委員会と将来計画委員会でさらに検討となった。③、④は承認された。⑤は次期へ繰り越し。⑥、⑦は原則承認となり、今後編集委員会で対応。

以上で理事会は終了。

評議員会報告

（平成21年度第1回）

日 時 平成21年7月1日
場 所 札幌グランドホテル
出 欠 評議員（197名中）出席95名，委任状87名。
欠席15名。

報告事項

- I. 会務報告
- II. 委員会報告
- III. 支部活動状況
- IV. 第83回日本結核病学会総会収支決算
- V. 第85回日本結核病学会総会準備状況
- VI. その他

議 案

- 第1号議案 平成20年度日本結核病学会収入支出決算
（本誌645, 646頁参照）監査講評：坂谷監事。
- 第2号議案 平成21年度日本結核病学会収入支出予算

案（本誌645, 646頁参照）

- 第3号議案 第86回総会会長並びに開催地について
- 第4号議案 名誉会員・功労会員の推薦について（本誌659頁参照）
- 第5号議案 新理事・新評議員・新監事について（本誌657, 658頁参照）
- 第6号議案 平成20年度学会賞について
- 第7号議案 その他

岸会長挨拶の後、山岸常務理事が会の成立を述べ、森理事長の司会により開催。逝去の報告（全員で黙禱）。報告事項に引き続き、議案については理事会同様承認された。

次々期第86回総会会長に中島由槻氏が推薦され、承認された。

以上により評議員会は閉会。

総 会 報 告

日 時 平成21年7月3日
場 所 札幌コンベンションセンター

報告事項

- I. 会務報告
- II. 平成20年度日本結核病学会収入支出決算
- III. 平成21年度日本結核病学会収入支出予算
- IV. 第86回総会会長並びに開催地について
- V. 名誉会員・功労会員・理事・監事の推薦について
- VI. 第83回日本結核病学会総会収支決算
第86回総会会長挨拶
第85回総会準備状況

岸会長挨拶の後、森理事長より逝去の報告があり、山岸常務理事により報告事項がなされた。岸会長により無事開催の御礼の言葉とともに第83回総会収支決算報告があり、次期第85回総会倉澤会長から準備状況が報告された。最後に次々期第86回総会中島会長より挨拶があった。

総会に引き続き学会賞の授与式が行われ、岸会長により今村賞受賞者の岩本朋忠氏、研究奨励賞受賞者の金子有吾氏・長野誠氏・長嶺路子氏に賞状と賞金が授与された。

新理事会報告

日 時 平成21年7月3日
場 所 札幌コンベンションセンター
出 欠 (理事30名+監事)
出席：鎌田、藤兼、渡辺、尾形、佐々木、鈴木(公)、山岸、長尾、中島、橋本、馬島、小川、長谷川、森下、田中(栄)、重藤、相沢、計17名。阿彦監事。
欠席により委任状：武内・石坂・巽・鈴木(栄)・梅・網谷・一山・鈴木(克)・倉澤・富岡・河野・菅・中西理事 計13名。

報告事項

- I. 理事長の互選について
- II. 常務理事の互選について
- III. 委員会委員長の推薦について

森前理事長から、推薦委員会により新理事長に渡辺彰氏を推挙する報告があり承認された。渡辺新理事長が挨拶。以下が審議され決定された。

常務理事

総務担当：鈴木公典
編集担当：山岸文雄（編集委員会）
将来計画担当：森下宗彦（将来計画委員会）

委員会委員長

治療委員会：重藤えり子
社会保険委員会：尾形英雄
用語委員会：鈴木栄一
教育委員会：長谷川好規
予防委員会：長尾啓一
非結核性抗酸菌症対策委員会：鈴木克洋
抗酸菌検査法検討委員会：富岡治明
保健・看護委員会：武内健一
国際交流委員会：河野 茂
ICD制度認定委員会：佐々木結花
ホームページ委員会：小川賢二

支部推薦委員が役員・委員長に決まった場合、事務局より再度、委員推薦を依頼する。委員長推薦委員は、秋の理事会で承認する。内規により、委員は重複しないことを確認した（学会賞選考委員・プログラム委員は除く）。